

ちば里山新聞は千葉県からの事業委託を受け、特定非営利活動法人ちば里山センターが編集発行しています

ちば里山新聞

(第 43 号)
編集発行 NPO 法人ちば里山センター
袖ヶ浦市長浦拓 2 号 580-148
電話 0438-62-8895
題 字 倉島 貴浩
(ワークホーム里山の仲間たち)

次世代リーダー35 名が巣立つ

3 月 14 日 ちば里山カレッジ卒業式

「ちば里山カレッジ次世代リーダー養成コース」がこのほど終了し、35 名の修了生が“里山リーダー”として巣立つこととなりました。「ちば里山カレッジ」は、地球環境基金助成事業並びに県民の環境活動支援事業の支援を受けて進められているもので、平成 25 年度に始まった「ボランティア養成コース」に、平成 26 年度からは「次世代リーダー養成コース」を加え、里山活動の経験や知見を一段と深めることにより、社会事業としての活動のあり方や活動団体の運営などを追求していこうとするものです。

両コースの修了者に卒業証書 卒業式は、平成 27 年 3 月 14 日千葉市の「きぼーる」を会場にして、午後 1 時 30 分からちば里山センター新井理事の司会で始まりました。まず、午前中に行われたワークショップにおける成果「SATOYAMA 活動行動計画」が受講生の 6 グループから報告され、ちば里山



センター伊藤理事から講評が行われました。続いて、金親学長（ちば里山センター理事長）から式辞が述べられ、修了生には修了証書が、既にボランティア養成コースを受講した修了生には卒業証書が手渡されました。そのあと高梨千葉県森林政策室長、鶴見千葉県農林総合研究センター森林研究所長から祝辞があり、卒業生を代表して柴崎則雄さん（きさらづ里山の会）が謝辞を述べ、式を終了しました。



個性的なワークショップ発表 「SATOYAMA 活動行動計画」の発表のテーマは、①「フィールドづくりとイベントプログラム」(2 班)、②「ボランティア活動と経済的自立」(3 班)、③「市街地にある小さな森」(5 班)、

④「ネットで集う里山活動」(4 班)、⑤「里山にあるものを使って公園をつくる」(1 班)、⑥「若人の参画する魅力ある里山活動」(6 班)などで、それぞれ多様な視点から個性的なアプローチがなされているとの講評を受けました。

なお、この「次世代リーダー養成コース」は平成 27 年度にも開催されます。また、昨年度から始まり今年度に 2 回目を終了した「里山ボランティア養成コース」は、平成 27 年度まで 3 年間継続されることとなっております。両コースとも平成 27 年度が最終年度になります。受講を希望される方はちば里山センター事務局までお問い合わせ下さい。

写真㊤=金親学長から卒業証書の授与

写真㊦=ワークショップ成果発表

写真㊧=ニューリーダーを軸に全員集合



～～～安全講習会～～～

胸骨圧迫、AED の取扱いなど

2月5日 普通救命講習会を実施

里山活動中の事故等を想定した安全講習会が、平成 27 年 2 月 5 日 (木) 袖ヶ浦市長浦消防署で行われました。参加者は、18 名。指導は袖ヶ浦市消防署救急隊員 7 名。

講習は 12 時 30 分から始まり、千葉県緑化推進施設で趣旨や日程の説明が行われた後、会場を隣の袖ヶ浦市長浦消防署に移して「応急手当の重要性」についての講義、「心肺蘇生法」の実習が行われました。参加者は 3 班に分かれ、人里離れた里山や森林等で事故にあった場面などを想定しながら、人形を相手に真剣に取り組みました。



終了後、受講者には袖ヶ浦市消防長より「普通救命講習修了証」が授与されました。

参加した長谷川博さん(おとすれ山の会)の感想「最初は恥ずかしさもあって戸惑いましたが、指導を受けてなんとか声も手も出るようになりました。そんな場面に往き合わせた時には思い切って行動したいと思いますが、まずは事故を出さないことが前提であり、平素の安全対策・確認が欠かせないとの思いを改めて強くしました。」

写真⑤①＝強く早く絶え間なく…胸骨圧迫は 30 回

写真⑥＝AED の案内音声に従ってパッドを貼って…

ボランティア共済保険 個別相談会も

里山シーズンを迎え、安全講習会の一環として保険の個別相談会が、平成 27 年 3 月 12 日 (木) 千葉県緑化推進施設の研修室において行われました。

初めて保険に加入する場合はもとより、現在加入している保険の補償内容を見直すなど、保険についての疑問点を解消し、万全な体制で新年度をスタートしようという趣旨です。講師は、全労済千葉県本部推進統括部広域推進課・河崎章氏。



第 12 回

里山シンポジウム in 山武

■日 時 : 平成 27 年 5 月 17 日 (日)

■会 場 : 山武市立大富小学校

■テーマ : 里山と資源循環 ～子どもにつなぐくらし方～

■基調講演 : 高畑勲 監督 (株スタジオジブリ) 「F・バックさんの伝えたかったこと」

そのほか、里山活動事例報告「Present Tree for さんむ日向の森」、映画「木を植えた男」、「クラック!」の上映、ピアノミニコンサートなど、盛りだくさんの企画です。皆様のご来場お待ちしております。

主催 : ちば里山シンポジウム実行委員会

なお、ちば里山条例に基づいて 5 月 18 日の里山の日を中心にした県内各地域で行われる里山関連イベントについては、千葉県で作成しているチラシをご参照ください。

地域協議会・林務担当者の情報交換会

森林・山村多面的機能発揮対策普及セミナー **2月10日**

森林・山村多面的機能発揮対策普及セミナーが、2月10日、永田町海運クラブで開催されました。地域協議会及び活動団体に対するアンケートやヒアリング、効果的な活動事例に関する分析等、本事業の調査項目を通じて得られた情報を踏まえ、森林・山村多面的機能発揮対策の全国的な普及啓発を図るための情報交換を目指すものです。

参加者は、全国の地域協議会のほか地方公共団体の林務行政部門担当者らおよそ100名。本事業を活用した事例の紹介や地域コミュニティによる活動を展開する際の課題と解決策等について情報交換が行われました。

千葉県からは、森林課増田副主査と地域協議会の伊藤事務局長が参加し、また、おとずれ山の会(市原市)が事例報告を行いました。

《セミナー概要》 ①基調講演：「森林・山村多面的機能発揮が地域を変える」NPO 法人地域再生機構木の駅アドバイザー・丹羽健司氏 ②取組活用事例報告：宮城県仙台市・館みはらし公園環境整備クラブ、千葉県市原市・おとずれ山の会、愛知県今治市・里山をよくする会、高知県高知市こうち森林救援隊 ③パネルディスカッション

獣害と戦う農村集落づくり 平成 26 年度鳥獣被害対策フォーラム 開催

平成 26 年度鳥獣被害対策フォーラムが、南房総市と市原市でそれぞれ開催されました。有害鳥獣による作物等への被害は、農業生産の減少だけでなく農業者の生産意欲低下につながることから、千葉県では個人の取り組みを超えて、集落ぐるみで問題解決に取り組む「獣害と戦う農村集落づくり事業」を支援しています。モデル地区の取り組み事例や里山ボランティアの取り組み事例などの紹介を通じて、都市住民との交流を深め、県民全体でより効果的な対策に取り組む機運を醸成するのが目的。

- ◆県南会場：3月17日(火) 南房総市富山公民館多目的ホール(参加者 150 名)。
- ◆県央会場：3月19日(木) 市原市市民会館小ホール(参加者 170 名)。

化学企業と地域社会との対話集会

「第 10 回レスポンシブルケア千葉地区地域対話集会」が、平成 27 年 2 月 4 日市原市五井会館で開催され、化学会社 20 社の環境報告を踏まえ、地域の関係各団体等との意見交換が行われました。主催は(一社)日本化学工業会。参加者は企業、町会、団体、学校等 150 名。



写真=企業のレスポンシブル・ケアについての意見交換

企業と里山活動団体の連携に向けて

市原の里山を守る交流会 **2月16日**

平成 26 年度第 2 回市原の里山を守る交流会が、2月16日市原市市民会館会議室で行われました。

交流会は、市原市農林業振興課が里山保全を通じてよりよい農林行政に反映させるため主催しているもので、参加は湾岸 4 企業及び 12 里山活動団体。獣害被害の実態や課題・対策等について状況報告、各活動団体の紹介、参加企業との意見交換などが行われました。

「きみつ里山活動ネットワーク」結成へ

本年 5 月 23 日(土)に「君津の里山のにぎわい 里山に託す私たちの未来」～自然と共に生き、にぎわいの里山づくりのために～をテーマにイベントを開催することとなりました。12 団体が活動体験を発表し、座談会形式で語り合い、大いに交流を図ります。また、5 月 21～23 日は 30 団体以上がパネル展示を行います。

その後、「きみつ里山活動ネットワーク」の結成総会が開かれる運びとなっています。

昨年の「第 11 回里山シンポジウム in 君津」の盛り上がりと採択された里山宣言の精神を生かそうと、昨年 7 月からシンポジウム実行委員が中心となって進められてきたものです。(きみつ里山活動ネットワーク準備会・尾形)

新会員紹介

サンショウウオ棲む「椎の森」

赤松 義雄 (椎の森里山会)

椎の森里山会では、袖ヶ浦市の北東部、椎の森工業団地の奥にあり、環境保全緑地として計画された市有地約 20 ヘクタールの山林を平成 17 年以来、ボランティア活動を通じて、生物多様性保全、環境学習の場として整備する目的で取り組んできています。

約 45 名の個人協力者に加えて、最近では企業グループの参加も見られ、市の計画に対して協力・支援し、将来を担う次世代に向けての、持続性ある環境保全林を整備しながら、メンバー相互のコミュニケーションを深めています。

対象地は永年放置されてきた水田を含む、西に開けた谷津地形の最奥部であり、南北の斜面はスタジイの巨木を含む自然林が生育していますが、林床の大半はアズマネザサ



に覆われ、進入困難な状態でした。

現在では繰り返し行われてきた刈り取りにより林間園地として利用される部分が拡大しつつありますが、今後とも区域全体にわたる作業を継続実施することが予定されています。

また、区域内に観察路の整備、落葉広葉樹の植栽等を行なっているほか、支障木の伐採に伴う原木を利用して、一部でシイタケの栽培等をはじめ、水田跡地、畑作跡地の一部において復元、栽培等も試行中です。

平成 21 年のオープン以来、会独自のイベントをはじめ、市内各団体等の環境学習・自然観察会の場として広く利用されております。

写真⑥④＝トウキョウサンショウウオの生息調査・保護活動

写真⑥⑤＝生体

写真⑥⑥＝卵

～椎の森里山会の概要～

・代表者： 小角 浩

・設立年月日： 平成 19 年 3 月 3 日

・会員数： 45 名の他賛同一般企業から 20 名程

・作業日： 毎月第 1 土曜日及び第 3 日曜日 他随時

ブログ：http://blogs.yahoo.co.jp/shiinomori_satoyamakai



<編集後記>

●千葉県が主催した“獣害フォーラム”では、被害が増えた要因として大きいのは、耕作放棄地の増加等のほかに「人馴れ」と「餌付け」であり、原因はもっぱら人間側にあるという指摘がありました。一方では「生物多様性」も叫ばれる中で、人間が自然と共生してゆくためにどのように考え行動してゆけばよいか、その難しさを改めて考えさせられたことでした。●若芽が膨らみ花がほころぶ季節です。”里山人”として、地球環境の維持・保全活動の意義をそれぞれの持ち場で考え、適切に推進してゆきたいものです。(K.T)

●今季「里山センター活動団体支援金」を受けた団体は、早急に実施報告書を事務局まで提出ください。(M.K)

入会申し込み、問い合わせ先

特定非営利活動法人 ちば里山センター

〒299-0265 千葉県袖ヶ浦市長浦拓 2 号 580-148 ☎0438-62-8895 FAX0438-62-8896

E-mail info@chiba-satoyama.net HP <http://www.chiba-satoyama.net>